

常なる磐

つねなる いわ

令和2年7月17日(金)号

◇ 美しいもの

高等学校では、甲子園の代替大会が全国各地で始まった。聞くところによると、野球だけでなく、その他のいくつかの競技も、開催方法を工夫して行うとのこと。球児や競技者の思いを汲んだ各団体と関係者の粋な取り計らいに、心が温まる。

さて、岡崎市では、明日から中学校市長杯が開幕する。コロナ禍の重苦しいニュースが続くさ中のホットな話題に、中学校のホームページも市長杯一色である。中学生の高まる胸の音が聞こえてきそうだ。

全国大会をはじめとする各大会、各市町大会の中止が早々と決定される中、子供たちのために市内大会だけは開催しようと尽力していただいた市教育委員会、そして市体育部会には感謝しかない。全国では、近頃の多雨による水災害により、危険と隣り合わせで日常生活を送っている地域もある。岡崎市の中学生には、そうした地区で必死に毎日の生活を送る同世代の若者の思いも感じながら、最後の夏の大会に臨んでほしいものである。大会の実現の喜びに満ちた活力ある姿だけではなく、2年半の部活動を通して心身を鍛え、逞しく成長した姿に宿る「健全な美しさ」を、保護者や仲間、後輩たちに見せることができるであろう。

雨続きといえ、本校の部活動も雨の影響で体育館での活動ばかり。制限が多く、十分な活動ができない中、子供たちはよく頑張っている。

水曜日は本当に久しぶりの屋外での練習。思う存分に体を動かす姿に、環境の大切さを改めて実感する。

ひととおりの活動を終えたところで、とてもよい光景を見ることができた。

数名の児童が、重い鉄製トンボとブラシを携え、運動場の整備に取り掛かった。トラック沿いと直線コースに上手に別れての締めくくり活動。

そう。練習を終えたら部活動終了ではない。活動に使用した場所を整えて、締めくくりの挨拶をして、部活動の終了。大正解だ。

それにしても整備の仕方が上手で、手際がよい。

トンボで地面の状態を平滑化し、そのあとブラシでさらに整える。よく見ると、上級生が方法の指示を出していた。6年生は、2年の経験を生かして伝えていた。

グラウンド整備を終えて、運動場は使用前よりも美しくなった。でも伝えておく。それよりも美しくなったのは、整備の携わった君たち自身の「心」なのである。